

はじめに

児童生徒一人一人が「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観、職業観を形成し、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることが重要な課題となっている。社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育て、一人一人のキャリア発達を支援するキャリア教育が強く求められているところである。

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(平成16年)において、各学校段階を通じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が提言され、キャリア教育の必要性や意義の理解は学校教育の中で高まり、実践の成果も上がってきた。しかし、報告書がキャリア教育を「新しい教育活動を指すものではない」としたことで、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみをとらえて職場体験＝キャリア教育とみなしたりするなど、その受け止め方や実践の内容・水準に大きなばらつきがあることが課題となってきた。

こうした中で、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」諮問され、中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会は、キャリア教育・職業教育の基本的方向性、発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策、後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の充実方策、高等教育におけるキャリア教育・職業教育の充実方策等について提言をまとめているが、その中で、本来の理念に立ち返ったキャリア教育の理解の共有の重要性を指摘しつつ、キャリア教育の基本的方向性を示した。すなわち、キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践されるものであり、一人一人の発達や社会人・職業人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すもので、その基本的方向性は、①幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること、②その中心として、基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実することにあるとした。

これまでのキャリア教育が本来の理念と共通の理解に欠ける部分があったとの反省から、「キャリア教育とは一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である」との理解に立ち、その推進を図ろうとするとき、キャリア発達すなわち社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の内容と育成の過程が示されなければならない。

このようなことから、「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究協力者

会議」が設置され、キャリア教育推進の基本的方向性の具体化について研究協議をかさねることとなった。この中でわれわれは、①これまでのキャリア教育の推進施策の展開と課題について整理し、②キャリア教育を通して育成すべき能力についてのこれまでの考え方を検討し、③今後のキャリア教育を通して育成すべき能力としての「基礎的・汎用的能力」を考究し、④基礎的・汎用的能力の育成と評価を中心としたキャリア教育の在り方を検討し、⑤発達の段階に応じたキャリア教育実践の進め方を提示した。

この報告書が、キャリア教育についての理解をいっそう深め、各学校等でのキャリア教育の実践の指針となることを期待するものである。